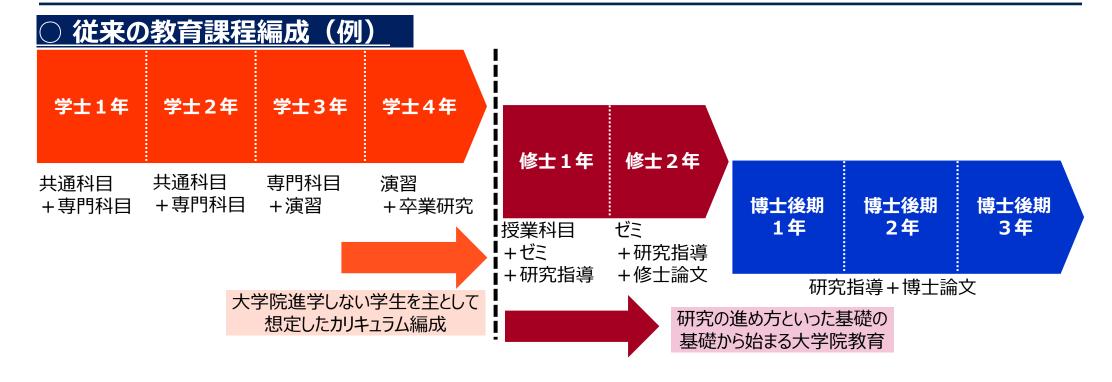
# 大学院修了を前提とした連続的な教育課程編成のイメージ



## ○ 大学院修了を前提とした体系的な教育課程編成のイメージ

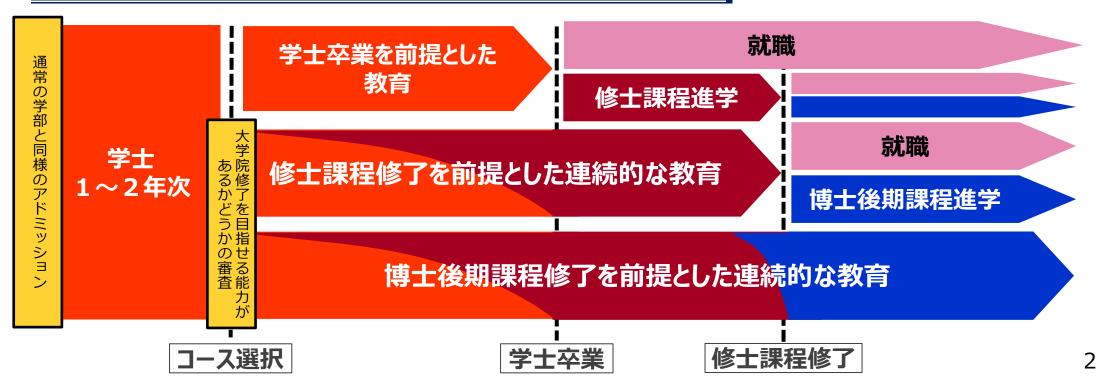


大学院修了を前提にすることで、学部の間から大学院レベルの課題発見能力、論理的思考力等を修得するためのトレーニングを実施

## 様々な教育課程編成の可能性



#### ○ 学部の途中で大学院進学コースに切り替わるパターン(例)



## 大学院進学を前提とした教育課程における修業年限・在学期間について

- 学部の教育課程について、分野によっては学生が長期で就職活動を行うことが可能となっている。
- 大学院修了前提の教育課程にシフトした場合、これまで就職活動に使われていた時間を学生の学びに充てることが可能。
- このため、分野によっては、必ずしも6年間の在学期間を求めなくとも大学院レベルの学びを提供しうる。
- また、学生に大学院進学を勧める上では、単に「高度な学びが得られる」だけではなく、修業年限・在学期間を短縮することにより、「濃密な学びをこなせる人材」としての称号を与えることも一手。
- 加えて、「濃密な学びをこなせる大学院レベルの人材」が社会からも評価されれば、そういったロールモデルを見た学生が大学院進学を志すようになる、といった正の循環にもつながりうると考えられる。

#### ○ 従来の教育課程編成(例)



- ✓ 学部・大学院ともに就職活動に時間を 取られることが前提
- ✓ 大学院における就活は修士1年の夏ごろから始まることも多く、大学院における学びを評価されているとは言い難い

#### ○ 修業年限・在学期間短縮の可能性(例)

学士1年 学士2年 学士3年 学士4年 修士1年

- ✓ 学生は、大学院レベルの学びを一定程度修めた上で、適切な時期に就職活動を行う
- ✓ 学生は「濃密な学びをこなせる大学院レベルの優秀な人材」であることが保証され、企業等は優秀性が保証された人材を早期に確保できる

就活